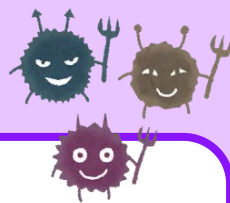


流行中！

百日咳に注意しましょう

現在、例年以上に百日咳が報告されており、全国的に流行しています。



百日咳とは？

百日咳は百日咳菌によって起こる、急性呼吸器感染症です。

1年を通して発生し、小児を中心に流行しますが、成人でも感染することがあります。

生後6か月以下の乳児では重症化しやすく注意が必要です。

成人では、比較的軽い症状で経過することが多いため、受診・治療が遅れ感染源になることがあります。

どうやって感染するの？

患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる菌を吸い込んだり、手指を介して感染します。

乳児の百日咳は同居家族からの感染が多くみられます。

どんな症状があるの？

症状は、2～3か月続くこともあります。



- ① **カタル期（約2週間）**：7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ症状で始まり、徐々に咳の回数が増え、激しくなります。
- ② **痙咳（けいがい）期（約2～3週間）**：特徴的な発作性けいれん性の咳（コンコンと短い咳が連続し、息を吸うときに笛の音のようなヒューという音が出る）が出現します。夜間の発作が多く、あまり高熱にはならず微熱程度のことが多いです。
- ③ **回復期（約2～3週間）**：激しい発作は次第に少なくなります。



乳児（特に生後6か月以下）では、特徴的な咳がなく、単に息を止めているような無呼吸発作がみられ、チアノーゼやけいれん、呼吸停止につながることもあります。

どんな治療をするの？

治療は生後6か月以上の患者には抗菌薬の飲み薬が有効です。

早期（特にカタル期）に内服することで、周囲への感染期間の短縮が期待できます。



予防法は？



予防接種が有効です。生後2か月に達したら、早めに5種混合ワクチンを接種しましょう。また基本的な感染対策としては、手洗い・うがいが大切です。

咳が出る時には、マスクを着用するなど咳エチケットを守りましょう。

